

## 「絆」から「紡」へ

校長 鈴木 隆志

先日実施した運動会には、早朝より大勢の皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。233人の光っ子たちが仲間との「絆」を深め合うことができたこと、応援に来ていただいたおうちの方々や地域の方々とも一緒になって、大きな行事を成し遂げたことを大変嬉しく思います。

今年は、ロンドンオリンピック、パラリンピックを通して、スポーツの素晴らしさを味わうことができました。世界各国の選手たちのひたむきな姿に感動をしながらも、「平和の祭典」という言葉について改めて考えさせられました。パラリンピックに出場している選手たちの中には、戦争被害を受けた人たちがたくさんいます。生まれながらにして、あるいは子供のころに障害者となった人たちの中には、いじめを受けて辛い思いをしてきた人もいるのでしょうか。いじめは絶対に許しません。

光っ子たちが運動会で見せた一人一人の“きらめき”や“かがやき”、純朴な“ひたむきさ”は、未来の「平和」につながる架け橋に違いありません。そして、運動会スローガンにあった「絆」も、未来を創る光っ子たちにとって、大きな“生きる力”になっていくはずです。

## ◆「絆」から「紡」へ

繭（まゆ）から繊維を撚（よ）り、糸を作っていくことを「紡ぐ」といいます。紡ぐことで、糸はどんどん強くなっていきます。様々な色に染められた糸を少しずつ織り合わせていくことで、一本の糸からは想像もできないような美しい布が生み出されます。

「命や心を紡ぐ尊さ」を私たちは忘れてはならないのだと考えます。「絆」から「紡」へ、想いを深めていくことが大切なのだと思います。

## ◆『花は咲く』

『花は咲く』は、岩井俊二さんが詞を書き、菅野よう子さんが作曲をしたNHKの復興支援ソングです。お二人とも宮城県の出身です。岩井俊二さんは『Love Letter』等で知られる映画監督です。菅野よう子さんは、『梅ちゃん先生』の主題歌の作曲者でもあります。被災県の出身者たちが出演し歌い継いでいく映像も、岩井俊二監督によるものです。岩井俊二さんは次のように語っています。

「僕らが聞ける話というのは生き残った人間たちの話で、死んでいった人間たちの体験は聞くことができない。生き残った人たちですら、亡くなった人たちの苦しみや無念は想像するしかない。亡くなった人たち、生き残った人たち、あの震災を遠くから心配していた人たち、3.11から今に至るまで、それぞれが一体どんな想いをしているのか、数行では到底書きようもない想いの、せめて僅かな片鱗でも書き留めることができたなら、という想いで詞を書いた。」……胸に刺さる言葉でした。

被災地とつながる想いを、「絆」から「紡」へと深め、未来を創っていかねばと思います。

## ◆第一学期から第二学期へ

二期制をしく練馬区では10月が第一学期の終わり、そして第二学期の始まりです。4月6日に始まった第一学期は10月13日(土)に終業式を迎えます。御家庭や地域の方々に支えられながら、光っ子たちの成長を願って取り組んできた半年間の学習や生活をまとめます。「あゆみ」は、光っ子たちを褒めたり励ましたりするもの、また、新たな目標をもたせるためのものです。日曜日しか間がありませんが、10月15日からは第二学期がスタートします。「絆の一学期から紡の二学期へ」、私たち教職員も、決意を新たにスタートを切ります。保護者の皆様、地域の皆様のさらなる御理解と御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。